本蔵院からの季節のおたより

数々修習

「さくさくしゅうしゅう」

vol.07

平成二十九年 初夏

- 住職からのご挨拶
- 梵鐘開眼供養式、桜の植樹式の報告
- さくら祈願のご報告
- 五月の大祭のお知らせ
- お墓のお悩みをお聞かせください
- 復興支援ソングについて

裏面に さくら祈願・梵鐘開眼供養式のフォトライブラリーあり

数々修習とは?

道を求める事、つまり見道・求道を繰り返し繰り返し反復するという意味です。私住職もこのお便りと一緒に熟していければと思っております。

これからの明るい熊本に向け、一歩前へ

これからも皆様に寄り添う活動で仏様の種を、蒔いて参ります

さて、あの熊本地震より一年が過ぎました。皆様におかれましては、その後いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれに今までに経験をしたことのない程のご苦労があったことと存じます。

私ども本蔵院においては、震災直後より様々なことに取り組み、お寺としての役割を果たそうと奔走いたしました。それがどのような形で皆様のお力になれたかは分かりませんが、たくさんの良きご縁を頂戴し、これからの明るい熊本への一歩を感じることができました。

昨年秋に行いました「百螺祈願」。全国より百名を超える住職の皆様が熊本に集結し、復興の祈りを捧げた世界は、私の人生においても忘れることのできない大事業となりました。

この春には復興を祈念した「鐘楼堂および梵鐘」を地震一周忌に間に合わせ建立し、多くの縁者の方々とともに法要を勤めることができました。さらに、それに合わせて企画いたしました「さくら祈願」ではたくさんの子どもたちに何かを伝えることができたのではないかと思っております。

また、私事ではありますが、四月十七日に生まれた次女の真緒(まお)が無事一歳の誕生日を迎えました。思えば前震後すぐに破水、即入院。本震の後に出産し、子どもたちと坊守の牧子は実家に避難…とさまざまな困難を乗り超えながらの一年間でした。また、長女の紗和もピカピカの一年生になりました。私の人生の中で、これまで一番〝燃えた〟一年を過ごす中で、娘たちの成長が心の支えでありました。

「地震の復興」という大きな目標の前では、ひとりひとりができることはそう多くはないかもしれません。しかしできる、できないを超えて、人の心に寄り添い行動することがこれからも大切であると考えています。

私たちの仕事は、仏様の種を子々孫々と繋げていくということであります。その種蒔きを怠らず、一歩一歩前へゆっくりと歩んで参りましょう。

合掌

平成二十九年五月吉日

第二十世住職 藏本崇正 拝

第二十世住職　藏本崇正

奇跡的な晴天の中執り行いました

醍醐の桜の植樹式と梵鐘開眼供養式

四月三日、復興を祈る「復興の鐘」の開眼供養式ならびに、菩提樹苑の「醍醐の桜」植樹式を盛大に執り行いました。

これは昨年の「百螺祈願」で加藤神社ならびに阿蘇神社へ植樹した「醍醐の桜」と同じ桜を菩提樹苑にも植え、さらにそのそばに建立した復興を祈る鐘「復興の鐘」の開眼供養を行ったものです。

前日までの荒天が嘘のような青空の下、加藤神社の湯田宮司や阿蘇神社の内村権禰宜をはじめ、およそ百五十人の方においでいただきました。ご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

阿蘇神社、加藤神社に加えて三本目となる、「醍醐の桜」の植樹式を終えた後には「復興の鐘」の撞き初めを行いました。荘厳な鐘の音は、熊本市、そして阿蘇の山々まで響き渡るようでした。

ゲストとしてご参加いただいた「熊本音楽復興支援100人委員会」の皆様による生演奏も披露。青空の下で聞くクラシック音楽はまた格別でした。

式の最後には参列者全員で、願いごとを書いたカードをつけたバルーントス(風船飛ばし)を行いました。晴天のうえ、風がなかった当日は絶好の「バルーントス」日和。お手伝いいただいたイベント会社の方も「こんなに美しく風船が飛んでいくのは本当に珍しい」と驚いていたほどです。色とりどりの風船が、青空に飲み込まれていき、参加者の復興への祈りが浄土まで届いたようにも思えました。

この「復興の鐘」と、熊本市・阿蘇市に植樹された三本の「醍醐の桜」が、これからも熊本の復興を見守り続けることを願います。

この「復興の鐘」は、まだ制作初年度で、たびたび撞くと壊れてしまう恐れがあります。それを防ぐため、これからしばらく寝かせ、撞くのはお休みです。今年の大晦日、除夜の鐘として皆様と一緒に撞くことを計画しています。詳細が決まり次第お知らせします。また、来年以降は、いつでも来られた方が撞けるようにしていきたいと考えています。どうぞお楽しみに!

完成した鐘楼堂と「復興の鐘」

祈りを込めて空に舞った色とりどりの風船

大きく成長した子どもたち

自らの手で復興の祈りを捧げた「さくら祈願」報告

昨年の「百螺祈願」のルートを、子どもたちがたどる一泊二日の旅「さくら祈願」が四月二日、三日に行われました。参加したのは小学一年生~五年生の総勢二十五名です。

霙(みぞれ)や雹(ひょう)が降る極寒の阿蘇を歩いた一日目、開眼供養式に参加した二日目と、一回りも二回りも成長した子どもたち。

最初は親から離れることに泣いていた子どもが、旅の終わりでは「みんなと別れたくない、また参加したい」と名残惜しそうに話していたのが印象的でした。

一日目　国造神社~阿蘇神社

緊張の面持ちで集まった子どもたちは、まずバスで本蔵院より手野の名水を汲む場所まで移動。阿蘇神社までの七キロは歩いて巡礼します。

そろいの〝子ども山伏〟姿に変身したものの、当日は霙が舞うような極寒!　四月にこの寒さは「阿蘇でも滅多にない」という悪天候の中、住職と各地から集った六名の山伏とともに歩きました。山伏たちが唱える掛け声「慚愧　懺悔　六根清浄(ザンギサンゲロッコンショウジョウ)」に後押しされるように歩みを進めます。ただ、あまりの寒さに途中で「帰りたい」と言い出しそうな様子も見られました。そんな時も、子どもたち同士で「がんばろう」と励まし合い、支え合いながら、皆最後まで歩くことができました。

阿蘇神社では、内村権禰宜に出迎えられ、地震で壊れた建物を目の当たりにしました。また権禰宜から、阿蘇神社の歴史や正しい神社の参拝方法なども聞き、真剣な表情で聞き入っていました。手野の名水を手に、「醍醐の桜」に洒水(しゃすい・水やり)を行い、地震からの復興を祈りました。

旅館では、仏教の作法にのっとって、無言の食事に挑戦。仏教かるたやオリジナルのお守りを作る体験なども楽しんで、一日目が終了しました。

二日目　加藤神社~梵鐘開眼供養式

前日の荒天からうってかわった晴天となった二日目。まずはバスで加藤神社へ移動します。昨日教わった正式な神社の参拝方法に従い参拝した後、湯田宮司の加藤神社や熊本城の歴史の話に耳を傾けました。

最後は、菩提樹苑の「醍醐の桜」の植樹式と梵鐘開眼供養式に、子ども山伏の衣装のまま参加。手野の名水を洒水し、住職とともに開眼供養に立ち会いました。一時間近くの式の間、黙って住職の横に並び、しっかりと役目を果たしてくれました。

式の最後はバルーントスにも参加。風船を手放し、歓声とともに空に見送りながら笑顔がこぼれました。

一泊二日の間に、多くの体験をした子どもたち。これからの長い熊本復興の道を支えるのは彼らです。大きく成長した姿に頼もしさを覚えました。

完成した鐘楼堂の前で記念撮影。全員がんばりました!

本蔵院からのお知らせ

NEWS 01

年に3回ご本尊とのご縁の日 初めての方でも是非ご参加ください

お不動様のご縁日となる28日の月例護摩祈願。5月の大祭は、参拝者が自らの手で護摩木をお不動様の智火(ちか)に投じていただく「内拝」も行います。燃え上がる火と熱を前に身も引き締まるような体験ができます。

内拝ができるのは、1月、5月、9月の年3回のみ。もちろん祈願後には、坊守手作りのお赤飯や精進料理のお接待をご用意しております。祈願の申し込みについては同封の用紙をご覧ください。

5月の護摩祈願大祭のご案内

○ 開催日:5月28日(日)　13時~

○ 場　所:本蔵院 本堂

※駐車所が少なく、皆様にはご迷惑をお掛けしております。近隣のコインパーキングをご利用いただくか、公共交通機関のご利用をお願いします。

昨年の大祭の様子

NEWS 02

お墓のお悩みをお聞かせください 無料相談を受け付けています

熊本地震を受け「お墓」についてあらためて考えたという人が増えています。地震で壊れたが、なかなか業者が来てくれない、管理ができていなかった…など、お墓の悩みはさまざま。

本蔵院が経営母体の霊園・菩提樹苑では、墓地管理士の資格を持つスタッフが霊園の立場から皆様のご相談に応じています。菩提樹苑にお墓のない方のご相談も受け付けます。安心してご連絡ください。

こんなお悩みが寄せられています

- 地震で壊れたが、なかなか業者が来てくれない
- 修理費用が適正な見積もりなのか不安
- 子ども、孫へどう引き継いでいくか
- これからの管理が不安

年間500組近く相談が寄せられています。さまざまな不安に誠意をもって応えます。どうぞお気軽にご連絡ください!

霊園部長 木村 光宏

無料相談のお申し込みは

公園墓地 菩提樹苑

TEL 096-356-1962

菩提樹苑 検索

NEWS 03

復興応援アンサーソング「365歩のテーマ」住職がボーカルを担当

くまモン体操を作詞作曲された熊本の音楽プロデューサー、ボンボ藤井さんと本蔵院住職蔵本崇正がボーカルを担当した熊本地震復興応援アンサーソング「365歩のテーマ」が、下記のページからダウンロード可能です。地震発生直後、多くの支援をいただいたことへの感謝の気持ちを込められた曲です。売上金の一部を復興支援へと寄付いたします。種類は、着うた(250円)、歌入り(200円)、カラオケ(200円)。

詳細は下記のサイトをご覧ください。

ダウンロード案内ページ

http://www.tunecore.co.jp/artist/bombofujii

YouTube での視聴はこちらから

https://www.youtube.com/watch?v=4MXiyHxq9hM&feature=share

皆様のお声をお聞かせください

7号目です。昨年の創刊号は地震直後でした。発行を延期することも考えましたが、どうにか発行しようと決めたことを昨日のように思い出します。内容のご感想やご要望、紙面でご紹介できるエピソードや、写真がございましたら、下記までお送りください。

発行元　本蔵院「数々修習」編集室
(担当/宮本ゆりこ)
〒860-0811 熊本市中央区本荘6-15-50
TEL 096-364-4848 / FAX 096-364-9570
info@honzouin.or.jp